

【印旛地域①】平成30年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

| | | | |
|-------|--------|-----|-------|
| 設置場所 | 成田市 | 品種 | アキヒカリ |
| 土性 | 壤土 | 播種日 | 3月12日 |
| 播種量 | 130g/箱 | 移植日 | 4月10日 |
| 幼穂形成期 | 6月8日 | 出穂期 | 6月30日 |
| 成熟期 | 8月6日 | 収穫日 | 8月6日 |

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

| | | | |
|------|---------------------|-------|-----------|
| 稈長 | 69.4cm | 穂長 | 19.9cm |
| 穂数 | 420本/m ² | 倒伏程度 | 0 |
| 粗玄米重 | 650kg/10a | 標準単収値 | 540kg/10a |

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：発酵鶏糞
- ・施用量：60kg/10a
- ・施用時期：－

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・(基肥) N量：8.4kg/10a ※肥料銘柄：高度化成14
 - ・(追肥) N量：3.3kg/10a ※肥料銘柄：軽量追肥
- 追肥実施日：5月20日

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日(5月中旬を推奨)：4月10日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度(55株/坪を推奨)：53株/坪
- ・植付本数(4～6本/株を推奨)：4.6本/株

4 考察等

6月中旬の低温や、6月下旬の強風による不稔の発生があったが、栽培管理のポイントに基づいた管理の実施によって、高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

| | アキヒカリ |
|------|-----------------|
| 基肥N量 | 6kg/10a(壤質土の場合) |
| 穂肥N量 | 3kg/10a |

※穂肥は、幼穂形成期(幼穂が1～2mmの時期)に施用します